

授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!!

西部の国語の未来へバトンをつなぐ



国語科授業づくり講座(授業研究会)～単元づくりの基本を学ぶ～

高知の未来の授業を創る推進プロジェクトにおける「国語科授業づくり講座」の拠点校である宿毛小学校で第2回「授業研究会」が行われました。

9月に行われた教材研究会の学びから、資質・能力を育成する単元を再検討し、本時も改善しました。



西部管内の
講座関係のHP

【提案授業】 単元名：昔話のおもしろさを見付け、しょうかいしよう～広がれ！「おもしろ山」～

教材名：「かさこじぞう」東京書籍（2年下）

言語活動：昔話のおもしろさを見付け、「おうちカード」におもしろいと感じた理由をまとめ、友だちに伝える。

1. 宿毛小学校の提案

- ◆教材文の学びを関連図書で確かめながら進める単元構想
- ◆目的意識を明確にした言語活動

物語のおもしろさは、楽しく笑えることだけでなく、話の展開にときどきしたり、話の内容に感動したりと様々である。本時では、登場人物の会話や行動からおもしろさを見付け、同じ叙述を選んだ友だちの理由を聞いたり、違う叙述を選んだ友だちの理由を聞いたりすることで、新たなおもしろさに気付くことができるようにしたい。

2. 単元・授業デザインの三つの改善点

Before	課題	After
「おうちカード」の活用 家庭学習で書いてきた「おうちカード」を基に、交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ●カードを読むだけでは、対話とは言えない。 ●叙述に着目することができない。 	<p>(その一) 全文シートの活用 サイドラインを引いたり、理由などを書き込んだりした全文シートを基に交流する。</p> <p>全文シートを持ち、叙述を示しながらおもしろさを伝え合うことで、叙述を根拠として説明できる。</p>
三つの観点に整理 「言い方や言葉」「登場人物の行動や会話」「はじめと終わりの変化」の三観点で、おもしろさを見付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ●「はじめと終わりの変化」は、「登場人物の行動や会話」に含まれる。 	<p>(その二) 二つの観点に整理 「言い方や言葉」「登場人物の行動や会話」の二観点で、おもしろさを見付ける。</p> <p>「登場人物の行動や会話」を基におもしろさを想像する際に、「はじめと終わりの変化」も説明できる。</p>
全体のめあて 「登場人物のしたことや会話からおもしろさを見付けよう。」	<ul style="list-style-type: none"> ●自分が決めためあてではないため、主体的な学びとなりにくい。 	<p>(その三) 個人のめあての設定 「登場人物のしたことや会話でおもしろさを（〇つ）見付けよう。」</p> <p>自分のめあてをもつことで、主体的に学習に取り組むことができる。また、意図のある対話ができる。</p>



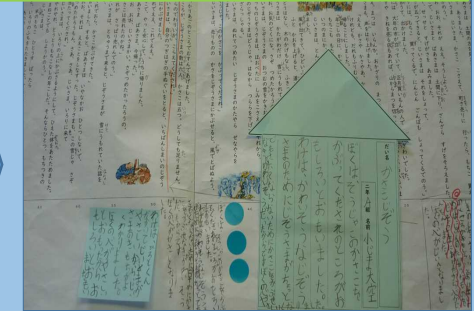
授業者より

3. 授業の実際

全文シート（教材の全文が見渡せるようにしたもの）を使って、自由に対話する。

見付けたおもしろさを説明する。（全体共有）

見付けたおもしろさをまとめる。



全文シートに引かれたサイドラインを誰が引いたのか確かめ、対話したい相手を決める。

- 同じ叙述を選んだ友だちに、理由を聞きたいな。
- 違う叙述を選んだ友だちに、どんなおもしろさが聞きたいな。

4. 講師による指導・助言

講師：松永 立志 先生（前鎌倉女子大学准教授）



1 授業について

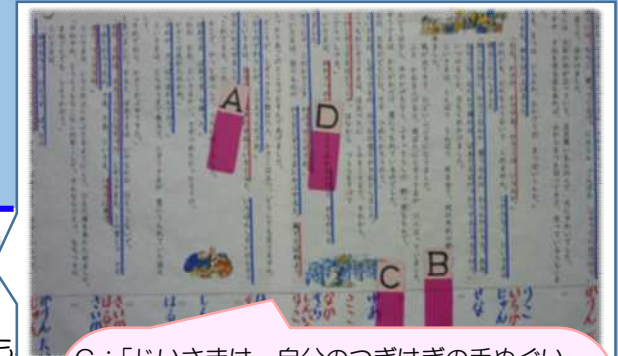
- 教材研究会で明らかになった三つの課題の改善策を取り入れたことは、授業改善の一步である。低学年でも対話相手を選択することができていた。自分の意志で動いて目的を達成しようとする姿が見られた。
- 個のめあては、自分の学習スタイルを自分でつくるために有効である。本時は「おもしろさを〇つ見付けよう」という数量的なめあてをもたせた。児童は自分のめあてをもつと、本時のように振り返りもたくさん書ける。主体的に学びに取り組むためにも、自分のめあてをもたせることが必要。今後は、めあての質を高めることへいざなう。（キーワードは、自己調整力）

2 今後の課題について

低学年の物語を読解する力は、物語を豊かに想像する力である。どうしてそのように想像したのかみんなを確認し、想像する方法を共有することが必要。⇒自分の体験や叙述を基に、想像したことを説明できる（図1:吹き出し部）

3 言葉による見方・考え方について

国語科で育成を目指す言語能力は、目に見えない。また、児童が「言葉による見方・考え方」を働かせているかどうかも見えない。だからこそ、教材研究によって、「言葉による見方・考え方」を可視化することが大事。（図1：全文シートの写真部）



C：「じいさまは、自分のつぎはぎの手ぬぐいをとると、いちばんしまいのじぞうさまにかぶせました。(A)」が、優しいと思いました。
T：どうしてそう思ったの？
C：ひどいふぶき(B)で、じぞうさまは、雪にうもれて(C)、はなからつららを下けている(D)から、おじいさんだって寒いのに、自分の手ぬぐいをかぶせてあげたからです。（図1）「言葉による見方・考え方」の可視化

参加者の声

- ◎子どもが学習のめあてを達成するために、（確かめたい、相談したい等）と感じ、必要な時に対話ができる授業を目指したい。
- ◎言語活動を通して目的を達成することで、子どもの資質・能力を育てるという一貫性を取り入れたい。